

こな

「こな」は、ようちえんで起こる
 こなとき・こなこと・こ～んなにを
 折々お届けします。

先生そっくり！



「あ～！いけないんだ～」と、お友だちがおもちゃを投げた時や、お帰りの支度をしない時など、子どもたち同士で注意する言葉が飛び交います。時には、おもちゃを貸してもらえない時など、自分の思い通りに行かない時にも飛び出す言葉でもあるようです。

小さいながらも、“良いことと悪いことがある”ことに気づき始め、自分なりに解釈しているのです。時には、「あれ？いけないのはどっちかな？」と先生は見逃さずに、声をかけることもあります。よし悪しや加減を学んでいる真っ最中。

本当にいけないことを注意しているかはまだ怪しい年少組ですが・・・その言い方やタイミングは担任の先生そっくりなのです。



「あ～ちょっとちょっと！」テーブルに乗ってなにしてるの!?

フイッと、イットキ!



面白いところでピアノ力してるね!

「プリキュアごっこしよう!」「え〜私おままごとがしたいの!」「もう!じゃあどうするの〜!」

最近、仲良しさん同士で、こんなやり取りが聞こえて来ます。自由遊び時間が少ない半日保育の日は、話し合いがまともならず、お片付けの時間が来ちゃうこともしばしば・・・。

ときには、「もういい!プイッ」と行ってしまうこともあります。その一部始終を見守っていた先生が「遊ぶ時間がなくなっちゃったね〜。」と残念がってみせると、「もっと早く決めればよかったのに!」なんて傍で聞いていた子にも言われたりして、しょんぼり。

次の日、どうしているかな?と、そっと覗いてみると、何事もなかったように、仲良く遊ぶ姿。もう“プイッ”としていない!屈託のない子どもたちのステキなところですね。



年中組

こ〜んな子みっけ!

くすの木アスレチック!
木の間に留まっています。
「手を放したって平気だよ



卒園記念品で頂いたカプラ積み木。どうすると高く積み上がるかな?と夢中です。



年長組



「せみの抜け殻触ってごらん！ほら大丈夫でしょ！」「鉄棒で逆上がりが出来ようになった！」「すごい！へんしんしてるね〜！」と、友だちからの刺激や応援を浴びながら、努力したことや、挑戦したことが克服につながって、みんなで喜び合う年長組。



おとまり保育のしおりを見ながら、期待を膨らませる年長組

そんな年長組が今、挑もうとしているのが“おとまり保育”です。近年、年長に進級すると同時に、ご家庭で早くから、おとまり保育の話題をすることが増えたように感じています。それが子どもたちのプレッシャーになっている場合もあって、「おとまり保育行かない！」と言い出す子も現れて来ました。

そんな様子から、まずは不安に思うことを聞いてみると・・・夜眠れなかったらどうしよう・夜おトイレに行きたくなったらどこを使えばよいか・オバケが出ないか・おねしょしたらどうするか？などなど。大人から見たら、どれもかわいい悩みですが、子どもにとっては一大事！その心配事一つひとつに丁寧に答えていくと、「先生やお友だちが一緒なら大丈夫」「おトイレにも一緒にいけばいいのか！」とか、次第に前向きな言葉へと変わって行きました。

その日から、子どもたちは“みんなでおとまり保育がんばるぞ！”と気持ちが盛り上がっています。期待も不安も、プレッシャーも、「みんなで！」を合言葉のようにして、一人ひとりが“へんしん”という成長・自信を持てますように。



どんな子みっけ!

むし暑い梅雨空が続く中、先日は個人面談にお出でいただき、ありがとうございました。各担任の先生から、幼稚園でのお子さんの様子や、成長している姿をお知らせさせて頂きました。

年少さんは、“幼稚園に通うようになって変わった!”というお話や、年中さんは「幼稚園ではそんなこともやっているんですね」という驚きの声。反対に、年長さんは、“幼稚園での張り切りとは違って、家では甘えん坊で困る!”と言うような声が聞こえて来ました。年齢ごとの成長があり、年長の甘えん坊も次の成長へのステップとして特徴がよく表れているなど感じますが・・・どの子ども、子どもたち同士で関わりながら、刺激し合い、集団生活の中での成長は本当に大きいのだらうと思います。



そんな子どもたちの成長を感じる大きな出来事がありました。6月24日に行われた「おじいさんのおはなし会」です。おひとり座の西川禎一さんは、研修会で講習を受けたこと

もあり、人形劇の面白さは、先生たちのお墨付きでした。でも、80歳のおじいちゃまがマイクを着けずに、園児160名の前で演じるわけですから、ちょっと工夫が必要かな?!とも感じていました。年少さんにとっては初めて体験する子ども多かったと思いますし、雨続きで発散がし切れていない時期なので、途中で飽きてしまったり、友だちと突つき合ったりし出すこともあるかな~と思っ

ていたのです。

いざ、おはなし会が始まると、『ねずみのすもう』のお話の中で



は、「細つちょネズミに餅をやるか。」とおじいさんが言うと「半分こがいいよ」と、お話の中に入り込んでいる子どもたちが言います。日頃、遊びや活動の中で、友だちと分け合ったり、みんなで食べると倍美味しくて、嬉しい体験をしているからこそのことばでした。

こんな反応が、所々でたくさん見られたのです。これは、子どもたちが、お話や絵本によく触れ、楽しさを知っているのと同時に、よく聞いて理解して、自分なりの思いを表現することも出来る力が育っているからだと思うのです。

この企画は、小中台幼稚園園長や小ばと幼稚園の副園長をしていらした榎木先生と前教務主任の石川先生がお声を掛けて下さり、実現したおはなし会でした。“幼稚園の子どもたちが、お話によく親しんでおり、楽しむ心が育っている”そして、西川さんから、「子どもたちの集中が続くな~。面白い場面では、笑って盛り上がるし、お話が始まれば、すぐに耳を傾けられる!どうすると、そういう子どもたちになるのかな~」と。幼稚園の現場で過ごしてきた榎木先生と、たくさんの子どもの前で演じて来られた西川先生から、そんな風に褒めて頂いて、とても嬉しかったです。楽しい時には思いっきり騒ぐ!お茶の



おけいこや仏教行事など、改まった場所では、しっかりと心を静めて取り組むことができる、その場に合った立ち振る舞いのできる子どもたちに改めて成長を感じ、見なおした出来事でした。